富士市教育委員会　５月	定　例　会 臨　時　会	会　議　録 （令和４年）

開催日	会議場
令和４年５月２３日　月曜日 開　会　　１３時３０分 閉　会　　１５時１５分	市庁舎６階　第１、２会議室

出席委員の氏名

教　育　長	森　田　嘉　幸	委　　員	松　田　靖　子
教育長職務代理者	和久田　惠　子	委　　員	塩　谷　知　一
委　　員	篠　原　　均		

出席職員等の氏名

教育次長	江　村　輝　彦	教育研修・特別支援教育センター所長	川　崎　里　恵
教育総務課長	味　岡　俊　雄	青少年相談センター所長	川　口　壽　彦
学校教育課長	齋　藤　文　徳	博物館長	植　松　良　夫
学務課長	榎　　俊　英	教育総務課調整主幹	小長谷　　聡
社会教育課長	吉　田　和　洋	教育総務課参事補	吉　村　直　也
文化財課	久保田　伸　彦	教育総務課主幹	遠　藤　綱　輝
中央図書館長	大　川　英　子	教育総務課指導主事	米　田　一　也
富士市立高校事務長	青　木　　洋	教育総務課指導主事	山　田　英　雄
		傍聴人	なし

開会

会議録の承認

教育次長の報告要旨

教育次長

○「令和３年度教育委員会自己点検・評価に関する外部評価検討会」について

・５月 26 日と６月８日に令和３年度の教育委員会の活動に係る「自己点検・評価に関する外部評価検討会」が行われる。これは、教育委員会の権限に属する事務の管理と執行状況について、外部の学識経験者から意見や助言を頂くものである。この検討会の結果を受けた後、評価報告書を作成し、９月の市議会定例会に提出し、公表する。

○市議会６月定例会について

・市議会６月定例会が６月 13 日から同月 29 日までの間で開催される。また、これまで教育委員会が所管されていた常任委員会は文教民生委員会であったが、委員会構成が変わり、産業教育委員会となった。この産業教育委員会は６月 16 日に行われる。

・教育委員会に関連した議会質問の答弁要旨については、７月定例会に資料として提出する。

議題（動議）及び議事の大要	
議第 21 号	○令和４年度教育費６月補正予算について
（説明）	・教育総務課長
（議決）	→承認
議第 22 号	○富士市立小中学校学校運営協議会委員の補欠委員の委嘱について
（説明）	・学校教育課長
(質問･意見等)	→まちづくりセンター長が外れた理由は何かあるのか。
（回答）	→令和４年度から松野まちづくりセンターについては市の直営から指定管理者制度へと管轄が変わったためである。
(質問･意見等)	→他のまちづくりセンターでも起こりうるのか。
（回答）	→そうである。
（議決）	→承認
議第 23 号	○富士市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部改正について
（説明）	・学務課長
（議決）	→承認
議第 24 号	○富士市社会教育委員の委嘱又は任命について
（説明）	・社会教育課長
(質問･意見等)	→富士市まちづくり協議会会長連絡会とあるが、まちづくり連合会とは別のものか。
（回答）	→６月に連合会組織を発足する予定である。
(質問･意見等)	→顧問が任命されている団体が１つあるが、顧問が選出される理由はあるのか。
（回答）	→各団体に社会教育委員の選出を依頼している。
(質問･意見等)	→市Ｐ連の会長は役職が多く、副会長や顧問と分担している。
(質問･意見等)	→事前資料に学識経験者がどのような学識経験を有するのか記載してあると、事前検討の参考になるので、記載していただきたい。
（回答）	→今後、そのように対応する。
（議決）	→承認
議第 25 号	○富士市図書館協議会委員の補欠委員の委嘱について
（説明）	・中央図書館長
（議決）	→承認

議第 26 号 （説明） （議決）	○富士市立高等学校学校運営協議会委員の補欠委員の任命について ・富士市立高等学校事務長 →承認
議第 27 号 （説明） （議決）	○富士市青少年相談センター運営協議会委員の補欠委員の委嘱又は任命について ・青少年相談センター長 →承認
議第 28 号 （説明） （議決）	○富士市立博物館協議会委員の補欠委員の任命について ・博物館長 →承認
報第５号 （説明） （質問・意見等） （回答） （回答） （質問・意見等）	○令和３年度教育施策の自己点検・評価について ・教育総務課長、学校教育課長、教育研修・特別支援教育センター所長、学務課長、富士市立高等学校事務長、社会教育課長、中央図書館長、青少年相談センター所長、文化財課、博物館長 →Ａという指標があまりにも高く設定されているのではないか。一般的にＡが目標達成、Ｂが70％程度達成であり、そうしないとＡという評価は出てこないのではないか。それを踏まえると、Ａ評価がついているところは、実際には課題があるはずだが、Ａと評価されていると課題がないという感じになる。また、同様に、Ａ評価とされていても、実績と目標値を比べた際に、その目標が適しているのかと感じるものもあった。目標の設定の仕方、数値の評価の仕方、達成度の出し方等に少し疑問を感じる。逆に目標を大きく上回っていてもＢと評価されているものもあり、それぞれ目標値の捉え方や評価の方法に曖昧さを感じる。また、何年間もＢと評価されていると、改善が功をなしていないのではないかと疑問を持つので、評価の仕方が今後の課題かと感じた。 　教育施策の自己点検・評価は課題や、課題に対する取組の達成度が見え、意見交換をする中で新たに課題が見えてくるものであり、時間がすごくかかる。スケジュールの取り方を考えていただきたい。 →指摘いただいたとおりであり、バランスを取りながらやる必要があると考えている。議案についても、分散するように配慮していく。 →指標の設定について再度、確認の必要が出てくるので、考えていきたい。 →評価する側も何をもって評価するのか難しいところもあり、主観ではなく、データから評価をつける形にするなど、項目毎でばらつき

	が生じないように検討いただきたい。また、ふじの教育懇談会の議論や成果などを報告をいただきたい。
（回答）	→目標の設定、Ａ評価の扱い、評価結果の妥当性について指摘とおり、見直す必要があるので、今後の検討していく。
（了承）	→了承
報第６号 （説明） (質問･意見等) （了承）	○富士市社会教育委員会議提言書の提出について ・社会教育課長 →次回の会議にて、再度の説明と質問をしていただく。 →了承
各課等の報告・予定事項	
閉会	